

平成25年度病害虫発生予報第4号

平成25年7月2日
愛知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量、日照時間は平年並	± ±
	紋枯病	平年並	全域	6月下旬現在発生を確認していない(平年並) 昨年の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ± ±
	セジロウンカ	やや少ない	全域	6月の発生量はやや少ない	—
	ツマグロヨコバイ	平年並	全域	6月の発生量は平年並	±
	カメムシ類	多い	全域	畦畔における6月の発生量は多い 予察灯における誘殺数はやや多い	+ +
	フタオビコヤガ(イネアオムシ)	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は一部でやや多い	+ +
	イチモンジセセリ(イネツトムシ)	やや多い (やや早い)	全域	6月下旬調査で第1世代幼虫の発生量はやや多く、老齢幼虫が認められた	+

・ 防除対策

[イネ・カメムシ類]

本日発表の「平成25年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

[イネ・フタオビコヤガ(イネアオムシ)]

本日発表の「フタオビコヤガ(イネアオムシ)情報第1号」を参照してください。

[イネ・イチモンジセセリ(イネツトムシ)]

例年、7月下旬から発生が目立ち始めるので、葉色の濃いほ場や移植時期の遅かったほ場では、7月中旬から発生に注意し、パダン粒剤4、パダンSG水溶剤、パダン粉剤DL、トレボン粉剤DL、MR、ジョーカー粉剤DLなどで防除しましょう。

・ 留意事項

イネいもち病(葉いもち)は、例年、7月上旬に発生します。発生を確認したら、今後の気象状況に注意して適切に防除しましょう。なお、各地の感染好適日は、本日発表の「いもち病(葉いもち)情報第2号」を参照してください。

セジロウンカの本田での生息を確認しました。なお、トビイロウンカは現在のところ発生を認めていません。詳細は本日発表の「ウンカ情報第1号」を参照してください。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並	± ±
	黒点病	少ない	全域	5月の枯枝の孢子形成量は少ない 7月の降水量は平年並	— ±
	ミカンハダニ	平年並	全域	6月の発生量はやや少ない 7月の気温はやや高い	— +
	チャノキイロアザミウマ	平年並	全域	粘着トラップにおける誘殺数は多い 6月のイヌマキにおける発生量は少ない	+ —
ナシ	黒星病	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	うどんこ病	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い	+
	シンクイムシ類	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	ハダニ類	やや多い	全域	6月の発生量は平年並 7月の気温はやや高い	± +
モモ	せん孔細菌病	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並	+ ±
	灰星病	平年並	全域	4月の花腐れの発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	ナシヒメシンクイ	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	+ ±
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	6月の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない	± —
	ハダニ類	多い	全域	6月の発生量は多い 7月の気温はやや高い	+ +
ブドウ	黒とう病	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	べと病	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	チャノキイロアザミウマ	平年並	全域	粘着トラップにおける誘殺数は平年並 6月のイヌマキにおける発生量は平年並	± ±
カキ	角斑落葉病 円星落葉病	やや少ない	全域	昨秋の発生量はやや少ない 7月の降水量は平年並	— ±
	うどんこ病	平年並	全域	6月の発生量は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
果樹共通	カメムシ類	少ない	全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない スギ・ヒノキの球果量はやや多い	— —

・防除対策

[ウンシュウミカン・そうか病]

被害葉、被害果は見つけ次第取り除き、園外へ持ち出しましょう。ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤、ベルコートフロアブルなどで防除しましょう。

[ナシ・うどんこ病]

ベルコートフロアブル、ナリアWDGなどで防除しましょう。

[ナシ・ハダニ類]

多発生園では、マイトコーネフロアブル、ダニサラバフロアブルなどで防除しましょう。

[モモ・せん孔細菌病]

多発生園では、早期落葉を防ぐために収穫終了後にアグリマイシン-100、アタックン水和剤などで防除しましょう。

[モモ・ナシヒメシクイ]

芯折れは見つけ次第取り除き、処分しましょう。芯折れが多く見られる場合は、ラービンフロアブル、モスピラン顆粒水溶剤などで防除しましょう。

[モモ・ハダニ類]

多発生園では、スターマイトフロアブル、マイトコーネフロアブルなどで防除しましょう。また、早期落葉を防ぐために収穫終了後にカネマイトフロアブル、コロマイト乳剤などで防除しましょう。

・留意事項

ブドウべと病は、降雨が続くと急速に蔓延するおそれがあります。発生を確認したら、速やかに防除しましょう。

ウンシュウミカン及びブドウのチャノキイロアザミウマ第3世代（一部第2世代）成虫の発生ピーク時期が近づいています。本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参考に、成虫発生ピーク時期に防除しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	少ない	平坦部	6月の発生量は少ない 7月の降水量は平年並	— ±
		平年並	中山間部	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	アブラムシ類	平年並	全域	6月の発生量は平年並 黄色水盤、黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
	アザミウマ類	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い	+

・防除対策

〔キク（露地）・アザミウマ類〕

発生が見られるほ場では、モスピラン顆粒水溶剤、ダントツ水溶剤などで防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台6月28日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止